

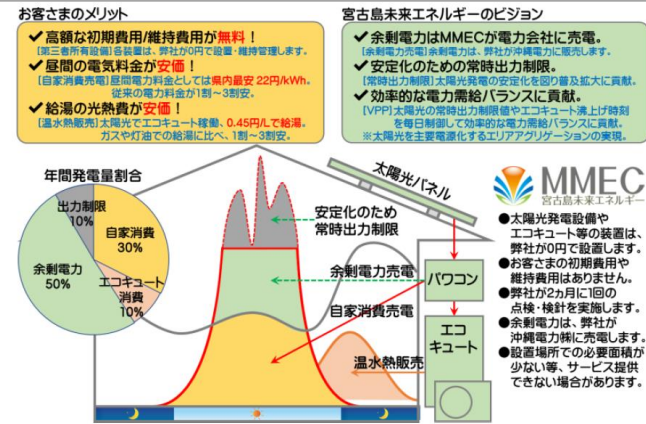


- 社名(商号) : 三菱HCキャピタル株式会社
- 本社所在地 : 東京都千代田区丸の内1丁目5-1
- 事業エリア : 日本全国・海外
- 定格容量 : 1,366MW (2023年3月末運転開始済み; DCベース)
- 公式HP : [三菱HCキャピタル株式会社 \(mitsubishi-hc-capital.com\)](https://mitsubishi-hc-capital.com)

## 取組み事例：離島での需給一体型モデル事業への事業参画 (出資)

### 取組み概要

- 三菱HCキャピタル株式会社が出資する「株式会社宮古島未来エネルギー(MMEC)」は、2018年度の再エネサービスプロバイダ事業(RESPI事業)として、宮古島市内の市営住宅40棟に第三者所有(MMEC所有)で太陽光発電(PV)およびエコキュート(EQ)を設置、PVを市営住宅の共用部に自家消費売電し、市営住宅入居者向けにEQによる温水熱販売を行っている。なお、PV余剰電力は沖縄電力株式会社に売電(非FITでの相対契約)している。2018年度の導入規模はPVパネル容量1,217kW、PVパワコン容量858kW、EQ120台。
- MMECは、2019年度以降もPV、EQ、家庭用蓄電池、EV充電器等を導入しており、同社の親会社である株式会社ネクstemズ(当社の共同出資者)と協働して、導入した全てのMMEC所有設備を常時遠隔から監視制御して、沖縄電力株式会社の協力のもと、宮古島におけるPVの主力電源化に取り組んでいる。



### 【大賞受賞のポイント】

宮古島市内の市営住宅40棟に太陽光発電設備(1,217kW)およびEQ(120台)を無償で設置、電力を市営住宅の共用部へ自家消費売電し、さらにEQによる温水熱販売をおこなっている。また、EQの稼働を最適制御するなど、複合的なエネルギーサービスを行っている。沖縄など全国各地の離島への先進的ビジネスモデルの展開が期待できるものとして高く評価された。



## 取組み事例：営農ソーラーシェアリング

### 取組み概要

三菱HCキャピタル

News Release



2021年7月9日

三菱HCキャピタル株式会社

HGE株式会社

西武造園株式会社

西武アグリ株式会社

#### ソーラーシェアリングを担う所沢北岩岡太陽光発電所の竣工式を開催

太陽光発電の下でブルーベリーなどを栽培するとともに、所沢市への電力供給を実施



太陽光発電システム



ブルーベリーの苗

三菱HCキャピタル株式会社(代表取締役 社長執行役員:柳井 隆博/以下、三菱HCキャピタル)のグループ会社である HGE 株式会社(代表取締役:大嶋 秀明/以下、HGE)と西武造園株式会社(取締役社長:大嶋 聡)の子会社である西武アグリ株式会社(代表取締役:清野 友美/以下、西武アグリ)は、本日、埼玉県所沢市内への太陽光発電の供給とブルーベリーなどの栽培を両立するソーラーシェアリングを行う「所沢北岩岡太陽光発電所」(989.04kW)の竣工式を開催しました。

所沢北岩岡太陽光発電事業は、環境省「令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(廃熱・未利用熱・営農地等の効率的活用による脱炭素化推進事業)」および所沢市「令和3年度所沢市スマートハウス化推進補助金」を受けた事業です。官民一体となり、遊休地となっていた農地を活用した事業を推進、西武アグリが太陽光発電システムの下でブルーベリーおよびワイン用・食用ぶどうを栽培します。すべての面積(農地全体:約1.7ha、うち太陽光発電システム下:約1.3ha)を用いて栽培すると、8年目には年間約1万3,600kgの収穫量となる見込みです。

また、発電量の年間予想は約1,119MWh(一般家庭311世帯分)を見込んでおり、株式会社とござわ未来電力に全量を売電し、所沢市の公共施設に供給することで、電力の地産地消を図ります。これは、市役所本庁舎の使用電力の約42%にあたり、年間約500t-CO<sub>2</sub>eの二酸化炭素の排出を削減可能で、所沢市が進める「所沢市まちごとエコタウン推進計画」の柱の一つである再生可能エネルギーの積極的な導入にも貢献するものです。

- 三菱HCキャピタルのグループ会社である三菱HCキャピタルエナジー株式会社(旧HGE株式会社)は、西武造園株式会社の子会社である西武アグリ株式会社とともに、**埼玉県所沢市内への太陽光発電の供給とブルーベリーなどの栽培を両立するソーラーシェアリング**を行う「所沢北岩岡太陽光発電所」(989.04kW)を運営している。
- 所沢北岩岡太陽光発電事業は、環境省「令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(廃熱・未利用熱・営農地等の効率的活用による脱炭素化推進事業)」および所沢市「令和3年度所沢市スマートハウス化推進補助金」を受けた事業で、官民一体となり、西武グループが保有する遊休農地を活用している。
- 西武アグリが太陽光発電システムの下でブルーベリーおよびワイン用・生食ぶどうを栽培し、すべての面積(農地全体:約1.7ha、うち太陽光発電システム下:約1.3ha)を用いて栽培すると、2023年度には収穫量1万3,600kgとなる見込みとなっている。

(2021年7月9日 News Release)